

「公共施設のあり方検討委員会」答申後の取り組み状況等について

群馬県立自然史博物館

1 施設の必要性について

自然史博物館は、本県の自然系の学術文化に係る研究・社会教育の中心施設として、数多くの県民に利用されている。また、自然環境への理解を深め、自然に親しみ学習する施設として、環境保護への取組が求められている時代のニーズにも合致しており、その設置目的は、今日においても失われておらず、教育的効果も高い施設と考える。施設の今後のあり方としては、継続とすべきである。

本施設は、県内の約半数の小学校に利用されるとともに、多くの県外の小学校にも利用されており、教育普及や調査研究にも力を入れ、実績を上げている。また、施設の展示内容も充実しており、観光面からも本県を代表する施設になり得ると考える。

(答申後3年間の取り組み状況)

◇運営方針

- ・自然史博物館は、県立の施設として、群馬県の自然の魅力を引き出すとともにその価値を明らかにし、広く一般に伝える博物館として存在しており、一人でも多くの方に利用してもらえるよう努めている。

◇魅力ある博物館を語る会と評価システム

- ・平成22年度には、県民の意見を館運営に反映させるため、民間の有識者等をメンバーとする「魅力ある博物館を語る会」を設置して検討を行い、「博物館の基本となる運営方針の策定」、「客観的な評価システムの構築」等の提言を得た。

平成23年度には、これを踏まえて「自然史博物館の使命と事業方針」を策定するとともに、評価システムの構築に向けて、評価項目及び目標値を策定した。

平成24年度には、職員による自己評価を実施し、結果をホームページ上で公開した。これにより、目標とする外部評価導入に向けた準備が整いつつある。

【平成23年度自然史博物館活動の評価 平成24年10月16日公表】

◇魅力ある企画展の開催

- ・平成22年度から、メリハリのある企画展の開催に努め、夏・秋の企画展を一本化した大型の企画展を開催した。

（平成22年度「第36回企画展 石になったものの記録」
平成23年度「第38回企画展 よみがえる謎の巨大恐竜スピノサウルス」）

◇閑散期における入館者の確保

- ・冬期は、入館者が年平均に比べ約半数に落ち込むことから、入館者増と新規顧客の開拓を目的に、平成22年度から比較的経費が少ない写真展を開催、閑散期における入

館者の確保に努めている。

【平成22年度「飯島正広写真展」、23年度「埴沙萌写真展」、24年度「サバンナの風 写真に見るアフリカの大地」】

◇正月開館

- ・自然史博物館は、教育施設としてだけでなく観光施設としても大きな期待が寄せられており、地域からの要望も強いことから、平成23年度から試験的に正月元日から開館を行っている。

◇教育普及事業の充実

- ・教育普及事業では、館内における事業として、平成23年度から子育て中の親子向け「紙芝居」を毎週土曜日に上演するとともに、「スポット解説」に一般向けを追加したほか、24年度からは「バックヤードツアー」を毎月開催している。
また、館外で行う事業についても、平成22年度から団塊の世代向けの「チャレンジ講座」を導入したほか、23年度からは「ミニミニ移動博」を開始するなど、メニューの充実と対象の拡大に努めている。

結 果

◇開館以来2番目となる入館者

- ・平成22年度は、大型企画展「石になったものの記録」が予定を下回るなど、入館者数が低調であったため、平成23年度以降、職員一人一人が危機意識を持ち、博物館評価制度の検討等をつうじて、問題点の把握等を行った。その後、平成23年度は約17万8千人（開館以来第3位）、24年度は約18万2千人（開館以来第2位）の入館者数（教育普及事業参加者を除く。）を記録した。

◇入館者数増加の理由

- ・入館者数が増加した理由では、工夫を凝らした企画展の開催（巨大模型の展示（第38回のスピノサウルス、第40回のダイオウイカ）、生態展示（第39回のヤドクガエル、42回のサンゴ）、企業の協力による生活に密着した展示（第41回の味噌、醤油、日本酒、かつおぶし）等に加え、平成23年度の「群馬デスティネーションキャンペーン」、24年度の「ググっとぐんま観光キャンペーン」への参加、周辺観光施設との誘客事業、首都圏や近県での広報活動など、誘客に力を注いだ結果であると考えられる。

◇教育普及事業

- ・教育普及事業では、学校現場との連携に努め、講師派遣、館内授業等の教育支援活動を積極的に実施した。また、小中学校の児童生徒を対象にテーマ別の調査研究を体験させる「ミュージアム・スクール」、毎週土曜日にボランティア主体で小学生を対象に実験、観察、ものづくり教室等を開催する「サイエンスサタデー」、通常は公開しない収蔵庫を案内する「バックヤードツアー」等、多様な事業を実施し、多くの参加者を得た。

【入館者数（教育普及事業参加者を含む）の推移】

区 分	24年度	23年度	22年度	21年度
入館者数 （対前年比）	182,038人 （+2.4%）	177,698人 （+19.5%）	148,697人 （△8.6%）	162,760人
教育普及参加者数 （対前年比）	58,984人 （△10.2%）	65,705人 （+54.5%）	42,533人 （+1.8%）	41,784人
合 計 （対前年比）	241,022人 （△1.0%）	243,403人 （+27.3%）	191,230人 （△6.5%）	204,544人

【企画展及び写真展開催状況】

区 分	会 期	入館者数
第35回企画展 むし虫ウォッチング	H22. 3. 13～ 5. 05 （ 47日）	29,045人
第36回企画展 石になったものの記録	H22. 7. 17～11. 21 （113日）	76,727人
第37回企画展 脳を学ぶ脳で学ぶ	H23. 3. 12～ 5. 15 （ 54日）	28,096人
第38回企画展 巨大恐竜スピノサウルス	H23. 7. 16～11. 20 （112日）	99,583人
第39回企画展 オシャレな動物たち	H24. 3. 17～ 5. 13 （ 51日）	35,887人
第40回企画展 深海の生物	H24. 7. 14～ 9. 2 （ 47日）	53,346人
第41回企画展 キノコとカビ	H24. 9. 22～ 11. 18 （ 50日）	36,175人
第42回企画展 サンゴ	H25. 3. 16～ 5. 12 （ 51日）	35,098人
飯島正広写真展	H22. 12. 10～23. 1. 31(30日)	8,640人
埴沙萌写真展	H24. 1. 1～ 2. 26 （45日）	13,882人
サバンナの風展	H25. 1. 1～ 2. 24 （43日）	15,753人



開館15周年記念（第38回）企画展「よみがえる！謎の巨大恐竜スピノサウルス」

【移動博物館の開催】

区 分		会 期	入館者数
22 年 度	群馬県立二葉養護学校	H22. 5. 26～ 5. 27 (2日間)	227人
	ぐんまこどもの国児童会館	H22. 9. 25～ 9. 26 (2日間)	1,822人
	館林市多々良公民館	H23. 2. 18～ 2. 20 (3日間)	930人
			計 2,979人
23 年 度	吾妻郡生涯学習複合施設	H23. 6. 4～ 6. 5 (2日間)	564人
	イオンモール高崎	H23. 9. 23～ 9. 25 (3日間)	5,437人
	群馬県立盲学校	H23. 11. 8～ 11. 9 (2日間)	120人
			計 6,121人
24 年 度	新田荘歴史資料館	H24. 7. 21～ 7. 22 (2日間)	336人
	イオンモール佐久平	H24. 10. 8 (1日間)	1,455人
	渡良瀬養護学校しろがね分校	H24. 12. 18～12. 19 (2日間)	213人
			計 2,004人



移 動 博 物 館



バックヤードツアー

2 管理運営方法について

- ①展示内容が充実していることから、教育施設としてだけではなく、観光施設としても明確に位置づけ、関係部署と連携しながら、積極的なPR等を行い県内外における集客の新たな展開を図るべきである。
- ②学校利用促進のため、県教育委員会と連携するとともに、研究部門職員の学校現場への出張授業の拡大や学校側のニーズを取り入れた運営をさらに推進すべきである。
- ③調査研究の成果について、県民に対してより一層の情報発信に努めるとともに、大学等との連携について検討されたい。

(答申後3年間の取り組み状況)

◇県内外への誘客活動

- ・県外からの利用者増を図るため、従来から東京都や埼玉県教育委員会や旅行会社を訪れ、学校利用の拡大と誘客に努めてきたが、一層の利用者増を図るため訪問範囲を拡げ、栃木、長野、千葉等においても積極的なPR活動を展開した。

◇学校利用の促進

- ・県内の学校利用を促進するため、従来は博物館に比較的近い前橋や西毛地区（高崎、富岡、藤岡、安中）を中心に校長会や理科主任会を訪問、博物館の紹介と利用PRを行ってきたが、平成24年度からは、北関東道の利用を踏まえ、東毛地区（太田、桐生、伊勢崎、玉村）への訪問回数を増加した。

【平成24年度校長会、理科主任会等訪問実績11回（うち東毛地区7回）】

◇関係部局との連携

- ・県観光物産課主催による群馬デスティネーションキャンペーン、ググっとぐんま観光キャンペーン、NEXCO東日本との連携による高速サービスエリアでの広報活動、富岡市主催によるスタンプラリー、近隣市町村・商工団体等で構成するかぶらぶら街道推進協議会主催による観光事業等に積極的に参加し、誘客に努めている。

◇教育支援

- ・小中学校や高等学校、大学や大学院の求めに応じて、講師派遣、館内での指導、博物館実習の受入等、博物館の施設や専門性を生かした教育支援活動を積極的に行った。

結 果

- ・平成23年度は群馬デスティネーションキャンペーン、24年度はググっとぐんま観光キャンペーンの実施期間を中心に、積極的な広報活動を展開した結果、前述したとおり、多数の入館者を得ることができた。

【教育委員会、旅行業者訪問件数】

区 分		24年度	23年度	22年度
東京都	教委	5件	3件	
埼玉県	業者	51件	50件	30件
千葉県	業者		1件	
栃木県	教委 業者	16件	2件 13件	
長野県	業者		43件	
群馬県	教委			15件

【学校(幼稚園を含む)向けスポット解説の実施】

区 分		24年度	23年度	22年度
カマラサウルス 尾瀬等の解説	学校数 人数	57校 2,970人	58校 3,941人	87校 4,924人



学校向けスポット解説

【大学・高等学校への支援】

区 分		24年度	23年度	22年度
講師派遣及び 館内講義	学校数 人 数	17校 736人	15校 360人	11校 540人

【小中学校への支援】

区 分		24年度	23年度	22年度
講師派遣等 ※	学校数 人 数	31件 2, 797人	14校 527人	18校 724人

※博物館の資料説明、天体観測等

【館内授業】

区 分		24年度	23年度	22年度
小中学校 館内授業	学校数 人 数	81校 3, 015人	68校 2, 752人	79校 2, 743人



館内授業

【数値目標と実績の推移】

区 分		24年度	23年度	22年度
学校団体 受入校数	目標	500校(33,000人)	470校(32,000人)	430校(30,000人)
	実績	449校(31,799人)	401校(29,732人)	401校(27,919人)
出張授業	目標	20校	17校	13校
	実績	42校	12校	8校
ボランティア リーダー育成	目標	3人	3人	3人
	実績	2人	2人	2人

3 管理運営主体について

- ①数多くの施設が設置された市立の大規模な総合公園内に位置しており、利用者側に立った一体的・総合的なサービスが提供できるよう、施設相互の連携方法等について、富岡市とよく話し合いをする必要がある。
- ②県直営による管理運営が適当であると考えられるが、民間のノウハウを活用する観点から、指定管理者制度について、他県での導入、活用状況など、情報収集に努められたい。

(答申後3年間の取り組み状況)

◇地域連携による誘客活動

- ・博物館の立地するもみじ平総合公園内にある市美術館については、平成23年度より、夏期の企画展開催期間中に周辺の観光施設（群馬サファリパーク、富岡製糸場、市美術館、自然史博物館）連携による誘客事業（優待券の相互配付によるPR等）等で協力しており、周辺施設相互の利用者増に努めている。24年度からは安中市の鉄道文化むらも加わり5施設となった。

また、平成23年度から試験的に実施している正月開館についても、周辺観光施設等（貫前神社、群馬サファリパーク、富岡製糸場、磯部温泉）において誘客の取組を行っている。

◇市美術館との連携

さらに、市美術館については、夏休みや冬休みに子供向けの企画を行うよう働きかけ、家族向けの利用者増とサービス向上に努めている。

【平成23年度夏：やなせたかし展、平成24年度夏：松本零士展、冬：ウルトラマン展 春：ハローキティ展】

◇総合公園内施設との連携

- ・もみじ平総合公園内のかぶら文化ホールや市体育館との連携では、博物館の団体客に対する雨天時の昼食場所の提供、ホールイベント開催時における控え室、大型バス駐車場の利用、博物館の館内燻蒸時の控え室利用、PR看板等の掲示協力、避難訓練の共同実施等、多様な協力を行っている。

◇指定管理者制度

- ・平成24年度に都道府県立の博物館・美術館・文学館等（登録博物館及び博物館相当施設）における指定管理者制度の導入状況について全国調査を行い、導入状況の検証を行った。

結 果

【周辺の観光施設等との連携】

区 分	実 施 内 容	対象施設及び配布枚数
H23年度	H23年7月1日～9月30日（DC期間中） 企画展「よみがえる！謎の巨大恐竜スピノサウルス」割引券配付 ・特にサファリにあつては、入場者に手渡ししてもらっている。	サファリ (5,000枚) 富岡製糸場 (1,000枚) 市美術館 (500枚)
H24年度	H24年7月14日～9月2日 企画展「深海の生物展」割引券配布 ・サファリ及び鉄道文化むらにあつては、入場者に手渡ししてもらっている。 H25年1月1日～3日 正月開館及び特別展「サバンナの風」に係る割引券配布	サファリ (14,000枚) 富岡製糸場 (1,000枚) 市美術館 (800枚) 鉄道文化むら (2,000枚) 貫前神社 (750枚) サファリ (1,000枚) 富岡製糸場 (1,000枚) 磯部温泉 (800枚)

◇指定管理制度

- ・指定管理者制度の導入については、平成23年度に策定した「自然史博物館の使命と事業方針」で掲げる資料収集、保存と活用、調査研究等の取組について、事業の継続性が重要とされること等から、あり方検討委員会の答申で示されたとおり、県直営による管理運営を行っていく方針としている。
- ・指定管理者制度の全国調査の結果であるが、これまで直営としていた施設は、ほとんどが当面は直営を継続する方針であり、従前に管理委託で運営していた施設については、おおむね指定管理者制度を導入している。

【指定管理者制度の全国調査結果（平成24年度）】

区 分	直営施設	指定管理者制度導入施設		備 考
		公募	非公募	
調査143施設	102施設 (71.3%)	31施設 (21.7%)	10施設 (7.0%)	(指定管理者制度導入施設の運営団体別内訳) 民間18、公益財団法人等23